

---

# 公衆電話と梅雨空と

牧野ケンタロウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

公衆電話と梅雨空と

### 【Zマーク】

Z9232C

### 【作者名】

牧野ケンタロウ

### 【あらすじ】

「確かに一つの時代が終わったのだ。」と、「わざられた公衆電話」と、僕と、そして梅雨空がありなすショートストーリー。

うちの近所の公衆電話ボックスが最近取り壊された。これも一つの時代の終わりなのだろうと、缶ピールを買つて、コンビニから帰る途中にそいつを眺めて、小さく吐き捨てた。

…そう、一つの時代が確かに終わったのだ。

今日はよく雨の降る一日だった。梅雨空は最後の力を振り絞り、雨の一滴一滴を落としているのかと思うくらい、雨らしい雨だった。おそらく、セミの声に夏を感じ始めていた僕に梅雨の存在をアピールしたかったのだろう。嫌われ者の梅雨空は意外と寂しがり屋なんだとと思うと、この雨模様は多少滑稽に映つて見える。

そんなことを考えていたら、ふと昨日の彼女の言葉が胸を横切った。

「この先のことを考へてる?私のこと考へてる?私は……私はね、ただ安心が欲しいだけなの。」

安心?甘えた事言つなよ、ふざけるなー感情的にそう言い放つた。安心なんて手に入れられるものなら、手に入れたいと思うくらい、自分の夢を追いかけことは不透明で、はるかに険しい道なのだとこの年になつてようやく分かった。「安定した暮らし程くだらねえものはねえよ。ほら、あのサラリーマン見てみろよ。こんな昼間からあんなに腐った目をして。安定した奴は、みんなあんなつまうんだぜ。」遠い昔に感じていたことは自分の青さのせいだった

と今はつきり分かる。安定期を求めるとは決して人生の逃げ道ではない。だから、彼女の気持ちも良く分かる。ただ、自分自身、ここまでやつてきて、今更あとに引けないだけだ。自分のアイデンティティなんでもにしがみつかないと、時々、自分が分からなくなってしまう。

「甘えたこと、ふざけるな、か…。」

そう呟いて、彼女は部屋から出て行った。

今朝起きると、携帯に一通のメールが届いていた。

『これ以上不安を抱いて生きていくのはもう無理みたい。今までありがとう。最後にこれだけは言わせて、私が好きだったのは夢を追いかけていたあなたで、夢にしがみついているあなたじゃないの。』

メールをゆっくり時間をかけて反芻した、しばらくして聞こえてきたのは雨音だつた。気象庁の梅雨明け予想つて今日じゃなかつたつけ。カーテンを開ける、街や人やいろんなものがいつものように動き始めていた。

取り壊された電話ボックスの残骸の、その色褪せた縁。

1つの時代が終わる瞬間、そこには色褪せた何かが数多く散在して、次第に昔の面影は微塵もなくなっていく。彼女が最後に僕に伝えた

言葉すら、いざれ色褪せていくのだろう。一つの時代が終わる事で始まる新しい時代…、今はそいつが輝いてくれること、そのことを願つて電話ボックスは色褪せてゆくのだろう、多分、いや、きっとそうなんだ。

小さく肯いて、湿気の分だけぬるくなつた缶ビールを左手に家路に向かつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9232c/>

---

公衆電話と梅雨空と

2010年10月15日01時14分発行